

物質工学連合部会第8回デザイン分科会
議事録

期日：平成9年6月5日(木)～6月6日(金)

会場：ラフォーレ琵琶湖(滋賀県守山市)

■本会議 13:30～14:20

1. 開 会

司会 滋賀県工業技術総合センター 野上雅彦

2. 挨拶

開催県 滋賀県工業技術総合センター所長 山下博志

デザイン分科会長 横浜市工業技術支援センター主任 関口逸平

3. 議長選出

開催機関長代理滋賀県工業技術総合センター技術第二斜長 松川進

4. 議事

(1) 指示連絡事項

国研・関係機関欠席によりなし。

(2) 提案要望事項審議

鳥取県工業技術センター：清水氏

「平成4年度に神奈川県藤巻さんに努力いただいてCG・CAD機器の保有状況の調査を行ったことがあるが、年数もたったことであり再び調査し、インターネットで検索出来る形にしたらどうか。」

長野県情報技術試験場：吉田氏

「鳥取県と同内容の提案に加えてその担当者・研究者のE-Mail, URLも検索出来るようにしたい。」

上記提案に対し分科会長より「インターネットに未接続の機関を考慮し印刷物としても配布するように対応して欲しい」との要望が出され、これについて検討の上進

めていくことで、提案が承認された。

(3)その他

静岡県中小企業総合指導センターデザインセンター：多々良氏

「デザイン開発総合支援システム、デザイナーバンク活用ガイドの紹介」

岡山県工業技術センター：塩見氏

「インターネットでの情報交換要望、6月13日より行われるDIGITAL PRODUCTS
セミナーの紹介。」

■分散研究会 14:30～16:00

1. 情報・CAD研究会(CG/CAD部会、ネットワーク部会合同開催)

議長 青森県工業試験場 石川氏

鳥取県工業試験場 清水氏

(1)VRMLによる、バーチャル試験場デモ

長野県情報技術試験場：長瀬氏

三次元CGにより仮想空間を作り出し、よりインタラクティブな方法で、試験場を紹介していく。仮想空間内の壁に貼られた紹介写真をクリックするとさらに、次の階層へと進むことができる。そこでは、より詳しい説明や、画像を知ることができる。

これらのデータは、インターネット上で流すことができるため、今後、ますます広がる情報通信社会では、有益なメディアだといえるだろう。デモのあと、いくつかの問題点もあげられた。リンク先から戻ると最初の視点まで戻るということ、表示スピードが、ユーザーのマシン速度に依存しているため、均一な情報提供が困難であるということである。前者については、VRML2.0の配布によって、解決されているようである。後者についても、日々進化を続けるハードウェアの世界では、たいして問題になるとは言えないだろう。

(2)光造形システムについての討論および提案

光造形システムに関心がある公設試は多く、これまでも何度かメーリングリストのなかでも話題に上がっている。今回、その問題点や、新しいタイプの機器についての情報交換が行なわれた。液体樹脂をつかったものがこれまでの主流であるが、問題点として液体樹脂のメンテナンスが非常に大変であるということがあげられた。その問題を解決したものに、液体樹脂の代わりに、粉末を使ったものや紙を素

材に使ったものもあるが、それぞれにランニングコストや精度の点で、長所短所が報告された。

(3) QTVR デモおよび、制作手順

滋賀県工業技術総合センター：野上氏

QTVR による表現は、VRML に比べよりリアルな、仮想空間を提供できる。QTVR と VRML の違いは・前者が写真を使った、パノラマであるのに対し、後者はまったくのコンピュータグラフィクスによる表現であるということである。必然的に、前者のほうが、リアルな表現が得られる。デモのあと制作手順と注意点が、簡潔に述べられた。まずは、広角レンズをつかって、正確に撮影するということであった。それらを素材にして、オーサリングしていく・撮影も、オーサリングも少々技術が必要になるとの報告であった。

(4) セキュリティーについての情報提供

青森県工業試験場：石川氏

おもに、Microsoft 関連のソフトウェアについてのセキュリティ上の欠陥における問題の注意と、対処方法の説明がなされた。最近、ネットワークの普及とともに、セキュリティ上の欠陥をついてシステムに侵入するなどの事件が相次いで起こっている。対処方法としては、配布されているパッチを当てるとのことと、こまめに、関連情報を入手するということであり、情報の入手先の紹介がされた。

(5) 総会で提案された、各公設試における CG・CAD 機器およびソフトウェアの調査について。

総会で議題にあがった調査の結果を、どういう形態で管理するべきかについて討議された・各公設試のサーバで分散管理する方法と、一ヶ所のサーバで集中管理する方法の二通りが考えられるが、サーバを設置する県に負担がかからない方向で一括管理する方法で、今後メーリングリスト等を使って次回までに討議するという方向でまとまった。

2. 地域デザイン振興研究会議長

奈良県工業技術センター山野氏

各参加機関より地域振興に関する活動を報告した。

・和歌山工業技術センターデザインセンター：林氏

新機関デザインセンターについて、本年4月より組織化し、10月に運営開始する。

ライブラリーの整備、外部デザイナーの活用、三次元プロッタ、マッキントッシュ、大型モニタの導入等を考えている。将来、金型への出力に対応するため UNIX を導入予定。

・ 東京都域東地域中小企業振興センター：薬師寺氏

フリーデザイナーをデザイナーを求めている中小企業に紹介している。また、デザイン交流会や技術交流会、経営者交流会等を組織し、デジタル映像(CD-ROM)やデジタル化研究会等で異業種交流を行っている。

・ 高岡市工芸デザイン指導所：倉嶋氏

デザインを広範囲で見直し、その中で新クラフト産業を作っていく。造形工房、情報ライブラリーの整備。

・ 旭川工芸指導所：及川氏

コストダウンのための生産ライン変更よりもデザインの考え方を重視するよう指導。平成2年から国際家具デザインフェアを企画し、地元企業から世界へ発信する方向を模索。

・ 山梨県工業技術センター：中村氏

デザインセンターが工業技術センターの中に組み込まれたことによって、地域資源等を活かした研究テーマ、環境問題等の研究テーマから、地場産業に特化した研究が主になってきた。

・ 香川県工業技術センター：森氏

デザイン専門職員が一人と嘱託が一人。平成7年にデザイナーリストを作成。9年度デザイナー協会の発足に向けて準備。(工業振興課と工業技術センター)

・ 群馬県工業試験場：丸氏 (平成ユ4年に組織改変予定。)

地場産業は自動車関係の下請けが主であるが、衰退の一途をたどっている。そこで新しく・デザインドクター制度を導入し、群馬デザイナーリストの中から中小企業へ派遣している。(1日2万円の有料)

・ 山口県工業技術センター：水沼氏

ある地域の町づくり実験を行っている。内容はパートナーシップ型ワークショップ

プもしくはは市民参加型ワークショップの企画開催。

- ・宮崎県工業試験場工芸支場：鳥田氏

産デ振よりデザインセミナーの開催要望。平成 10 年には工業技術センターとして宮崎市にある工業試験場と工芸支場のデザインが統合。

- ・愛知県瀬戸窯業技術センター：今西氏

地域密着型の研究テーマを取り上げている。

- ・佐賀県工業技術センター：川口氏

平成 8 年度に佐賀県デザイン振興ビジョンをつくった。地場産業別に産業振興行っていたが、デザインレベルの似通った企業を集めて、それに対してデザイン振興を展開していく。

- ・兵庫県立工業技術センター産業デザインセンター：真鍋氏

兵庫県は地域産業が 53 種類あり、全国の地域産業を網羅している。この産業が全国 10 指に入る生産高がある。最近ではデザインとファッションの線引きをどこでするかが問題となっている。企業へは、デザインは有効な手段であると指導している。他県への調査が行なわれることがあるが、その時はマイナスイメージにつながることは言わないで欲しい。

- ・神奈川県産業技術総合研究所工芸技術センター：渡辺氏

11 年にセンター移転予定。

- ・滋賀県工業技術総合センター：山下氏

デザインフォーラム SHIGA に関する報告。

- ・京都市工業試験場：比嘉氏

新規採用職員。これからの抱負を発表。

3. 生産デザイン研究会

議長 埼玉県工業技術研究所 山中康司氏

(1) 研究会の方向性について

- ・ 研究会は他公設試の具体的な取り組み方など、情報交換、意見交換の場とする。

- ・メンバーが固定的でなく、流動的でしかも年1回しか開催できないため、掘り下げた討論や作業ができないのでその都度、適切なテーマがあるときはそれを掘り下げていく。
- ・共同研究などについては、それぞれの機関が自主的に発案者となり共同者を募り実施するのが望ましい。

(2)「生産デザイン研究会」の性格付けについて

- ・「実際のデザイン開発や生産現場」における問題点等を取り上げることとする。

(3)「人にやさしいものづくり」

- ・第7回分科会で確認したとおり、これからのデザイン開発の方向は「人にやさしいものづくり」がキーポイントになる。

(4)「人にやさしいものづくり」について各県の開発事例などの報告、意見交換を行った。

- ・高齢化や福祉商品にかたよらず、デザインの根本である「人にやさしいものづくり」ということを考え、人にやさしい商品を開発する。
- ・イス等を開発するのに、現在の人体寸法の情報が欲しい。
- ・天然素材を使った、家具の開発事例。
- ・企業をまきこんだ、異業種交流会や研究会の事例・環境にやさしいものづくり。
- ・人にやすらぎやゆとりを与える商品開発の事例

■全体会議 16:10～17:00

1.分散研究会報告

- (1)情報・CAD研究会
- (2)地域デザイン振興研究会
- (3)生産デザイン研究会

2.次期開催地について

(1)分科会長から

「秋の分科会では研究事例発表を即日で関東平信越静ブロックで行い、他のブロックで春の分科会を行っている。しかし、秋の分科会で実際に輪番に加わっているのは首都圏の5県(東京、千葉、埼玉、茨城、神奈川)のみで、他の6県(新潟、栃木、群馬、山梨、長野、静岡)が空白地帯になっている。今後この6県を別ブロッ

クとして扱ってはどうか?」との提案がだされ、承認された。これにより、今後の開催県の予定は以下のとおりとなった。

春	秋(首都圏5県での輪番)
H 9 滋賀	神奈川(横浜市)
H10 東北・北海道	千葉
H11 関東甲信越静(首都圏以外)	埼玉
H12 中国・四国	東京

来年度春の開催地については、早急に検討の上、物質工学連合部会(6/26)までに決定することとなった。

(2)今年度秋の開催地である、横浜市工業技術支援センターの田中技術指導係長よりあいさつ。

開催日は、11月7日(金)の予定。

3. その他次期分科会長選任

長野県情報技術試験場デザイン部長

吉田健二(任期:平成10年4月1日-平成12年3月31日2年間)

4. 閉会

■現地研修会 6月6日(金)9:00～

1. 琵琶湖博物館

(1)概要説明 9:30～10:00

琵琶湖博物館交流センター科長 前畑政善氏

400万年前にさかのぼる琵琶湖の歴史と進化のドラマをたどり、湖と人間のよりよい共存関係をめざすためにつくられた研究教育施設である。

開館は平成8年であるが、平成4年より学芸員を順次採用し、ソフト面を充実しながら研究施設、展示場などハード面を作り上げていった。そのためにほとんど思いどおりの施設が出来たと自負している。かび臭さを感じさせない参加型の博物館であり入場者数も児童生徒を中心に予想を上回って伸びている。

(2)館内自由見学 10:00～11:00

2. 鮎屋の郷 11:30～12:40

昼食、自由見学

ー以上で、デザイン分科会日程終了

3. 信楽オブショナルツアー

(1)信楽窯業技術試験場見学 13:50～14:20

(2)大塚オーミ陶業(株)見学 14:30～15:30

大型美術陶板、建築陶板、サイン陶板、テラコッタ等の、斬新な製品の企画制作を行っている企業。

(3)陶芸の森見学 15:40～16:30

■補足

来年度のデザイン分科会開催地については次のとおりに決まり、6月26日物質工学連合部会に報告されました。

平成10年度第10回デザイン分科会(春期)は石川県(石川県工業試験場)

第11回デザイン分科会(秋期)は千葉県(千葉県工業試験場)

以上